

高校生によるポスター研究発表によせて

日本植物学会第 72 回大会（高知 2008 年）では、高知県および近県から 9 つの高等学校が参加し、高校生によるポスター発表が行われます。それぞれの高等学校における理科に関する熱心な教育活動に支えられ、高校生が自らの研究成果を発表することは、高校生の研究に対するモチベーションを向上させるだけでなく、植物学会の専門研究者にとっても研究の初心にかえることのできる絶好の機会を提供します。ここに、ポスター発表に参加された高等学校のみなさまと、企画にあたってご協力をいただきました高知県高等学校教育研究会理科部会のみなさまに心から感謝いたします。

普段、わたしたちは身の回りの自然をごくあたりまえのように見えています。日々の天候と気象、山や平地、湖沼、河川、海などの地形、それに、森や草花などの植物と野鳥や虫、犬、猫などの動物。それらの身近な存在はもとより、それぞれの関係や移り変わりも感じています。このような地球の自然のなかには、「なぜだろう?」、「一体どうなっているのだろうか?」と素朴な疑問と好奇心を抱かせるいくつもの現象があります。あれっ、と気づくことはもっとも大切な一歩。なぜならそれは、「調べてみよう!」という探求心を呼び覚ますのですから。

植物学会で発表される専門的な研究のほとんどは、もとをただせば最初の「なぜだろう?」から始まっています。身近に感じた素朴な疑問をとことん追究してきた結果です。しかし、結果といってもそれはいままでに分かってきたことの現時点の最先端、すなわち解明の途上ということです。最先端の研究が認められれば、その成果が教科書や専門書に載りますが、同時に、書かれている事実をはるかに超えて夥しい数の問いが新たに発生してきます。

専門化が進むと往々にして忘れがちになることが 2 つあります。1 つはその研究が私たち人間の活動および社会とどのようにつながっているかを考える俯瞰的な視点です。2 つ目は、植物または自然そのものを愛する心です。愛する心があつて初めて植物や自然は私たちに真実を見せてくれます。

高校生の素直な心は本質的なものを見抜く目を養い、若い頭脳は既成の観念にとらわれないう自由な発想と新しい考えを生みます。それゆえに、植物学会の専門研究者が高校生のポスター発表を見るとき、自分自身の研究の初心にかえる大切な時間を得ることができるのです。高校生諸君には、身の回りの植物や自然を観察して「なぜだろう?」と思わせる心の動きを見逃さず、また、その芽を大事に育ててほしいと希望します。

日本植物学会第 72 回大会（高知）

大会会長 奥田一雄